

Punggol Regional Library 訪問

光塩女子学院初等科 教諭 (ICT リーダー) 茂木 俊浩

1 はじめに

私立学校教員海外研修団は、2023 年 8 月 28 日午前、本研修において視察先唯一の公共施設である Punggol Regional Library (プンゴル地域図書館) を訪問した¹。前半約 1 時間は図書館スタッフによる館内ツアーを行い、その後 30 分弱で施設内を自由視察した。



2 施設概要

プンゴル地域図書館は、国立図書館庁 (National Library Board : NLB) が運営する公共図書館の一つで、2023 年 4 月 5 日に全館オープンしたばかりだ²。ワンプンゴル (One Punggol) という複合施設内の建物の一つで、全 5 階に及ぶ広い館内には、小さな子どもから高齢者まで、特別な配慮が必要な方々を含むすべての人の要求を満たす書籍、約 5 万冊を備えている。

人材育成は学校機関だけではなく、企業だけではなく、公共機関とも連携されるべきという思想の下、学習者が自発的に学び始められる環境の構築、誰一人取りこぼさない体制づくりを念頭に運営されている実態を視察することができた。

3-1 施設の特徴 バリアフリー

開館に向けた計画は 7 年前から始まり、誰でも使いやすい仕組みを特に重視して、バリアフリーの実現を目指している。開館までの計画の中で、特別な配慮を必要とする方々が所属する団体と何度も打ち合わせを重ねてきた。

(1) 照明

館内には照明を暗くしているところがある。普通の図書館は白く強い光を当ててくるが、自閉症専門の方々と相談した結果、強い照明は緊張をもたらすことがわかった。一方、一般の方々の要望もあるので、両者のバランスを考慮して、1 階の一部分の照明を調整するようにしていた。

¹ Punggol Regional Library のホームページは以下を参照。
<https://www.nlb.gov.sg/main/visit-us/our-libraries-and-locations/libraries/punggol-regional-library>

² Punggol Regional Library の紹介動画は以下を参照。
<https://www.youtube.com/watch?v=tCSUrcRf31o>

(2) 車椅子用貸出機

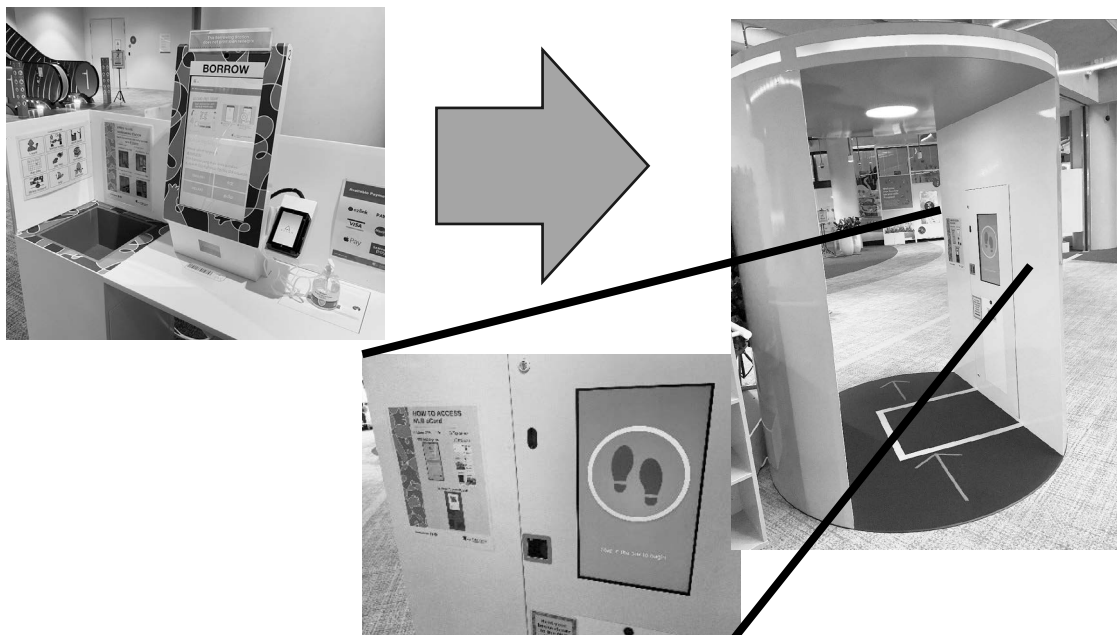


図1 車椅子でも利用しやすい貸出機

図1左のように従来通りの貸出機もあるが、1階の入り口に最も近い場所には、図1右のような車椅子の方も利用しやすい貸出機が設置されていた。貸出システムはスマホのアプリにアカウント情報を利用者が保存する仕組みとなっている。車椅子の利用者は、本を膝の上に置いたまま貸出機の中に入ると本の貸し出し情報を検出して、貸出処理を完了させることができる。

(3) Calm Pod と呼ばれる部屋



図2 Calm Pod

自閉症児や落ち着きのない児童のための Calm Pod と呼ばれる部屋があり、一人で冷静になるための場所が準備されている(図2)。部屋の周囲は全てクッションで覆われているので、体をぶつけても怪我がしづらいように設計されて

いる。また、その部屋は待合室からモニターで見ることができるので、保護者も安心して過ごすことができる。

3-2 施設の特徴 自習室



図3 一般的な自習室と個室型の自習室

3階の自習室は80席以上あり、来館者から人気な様子だった。工夫をしている点は、自習室には図書館の入り口と異なるもう一つの出入り口を設けていることである。図書館の開館前1時間、閉館後1時間も自習室が利用できる。図書館の開館時間は10時から21時なので、自習室の利用可能時間は9時から22時となっている。また、自習室は休館日も利用できるのも好評の一因となっている。

一人で集中するための自習室の他に、個室型の **Launch** という自習室もある。個室はモバイルアプリ（本の貸出と同じシステム）で予約することもできる。一度に4時間まで予約可能で、利用開始時にはモバイルアプリの **QR** コードを読み込ませる。

4 その他の特徴的な施設

紙幅の都合で全てを紹介できないが、いくつかの特色ある施設を紹介したい。

(1) Spark Lab（子ども体験教室）

図書館内ではあるが、手を実際に動かしながら体験する部屋が準備されている。参加する子どもは、自作のプログラミングをインストールした車を作成する。この教室では、試行錯誤を大切にしている。保護者が一緒に取り組むこともあるので、家族の絆に気づく機会にもなっている。

(2) 物語を作る喜びを感じる空間（Storyteller Cave）

物語を作るアプリが内蔵された端末が設置されている。物語を自作する喜びを感じるために、定型文を用意し、子どもたちの意欲を喚起させている。録音を吹き込むこともできる。完成した作品はメールで送ることができる。従来の紙で書く物語の書き方と、デジタル端末を使った書き方を統合している。

(3) ICT 体験コーナー (Make IT や Experience IT)

Make IT では 3D プリンタやレーザーカッターなど最新機器も無料で触れられる。Experience IT では世界で注目されているテクノロジー (AI や機械学習など) を体験できる。また、レーシングゲームでは、AI を利用して練習した方が、より良いコース取りができることも体験できる。

5 おわりに

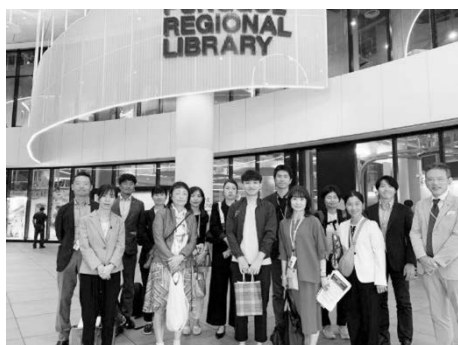
本施設は開館後半年も経過していない最新の施設だった。現在 1 日の来場者数は平日が 1,000 人、週末は混雑して 3,000~4,000 人とのことであった。今後隣の敷地に建設中のスポーツセンターが完成すると、更なる来館者が見込まれている。

今回、視察した図書館は最新の施設が完備されていたが、日本においても、図書館の変革はされ始めていると感じる。事例として、港区の札ノ辻スクエアは 2022 年に竣工したバリアフリーの仕組みを取り入れた最新の施設で、図書館と産業振興センターを併設した 12 階建ての複合施設である³。

今回、シンガポールの先進的な事例を視察したことで、改めて自分が住む国、地域の施設についても興味が喚起された。他国の現状を体験することで、自国の現状が相対化され、メタ認知が向上した好例といえるだろう。

これからも自分の視野を広くするために様々なものに挑戦し、柔軟な思考で研鑽に励み、学び続ける姿勢を保っていきたいと考えている。

日本国内の最新の教育については垣間見る機会が今までもあったが、国外の実態に触れる貴重な機会であった。本研修に際し、多くの方々にご尽力いただいた。心より感謝を申し上げたい。



³ 東京都港区 札の辻スクエアのホームページは以下を参照。

<https://www.city.minato.tokyo.jp/shisetsu/fukugo/fukugo/07.html>